

足羽川河川環境整備検討会

第3回

議事骨子

開催日時：平成18年2月3日(金) 午後1時00分～午後4時30分

開催場所：福井県教育センター 大ホール

◆ 議事次第

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 審議
 - (1) 第2回検討会での意見とその対応について
 - (2) 河川環境整備のための実施方策の検討
 - (3) 河川環境整備計画(案)
4. その他
5. 閉会

◆ 議事骨子

1. 第2回検討会議事骨子(案)について

第2回検討会議事骨子について、案のとおり承諾された。

2. 審議について

事務局より(1)第2回検討会での意見とその対応について、(2)河川環境整備のための実施方策の検討及び(3)河川環境整備計画(案)について説明があり、意見交換が行われた。また、福井商工会議所・福井市観光協会、福井青年会議所から意見発表が行われた。主な意見は以下に示すとおりである。

(1) 計画全体

- ・ 今回の検討会における最大の意義は、何回でも話し合い、一般の聴講者がいるということである。
→一般の皆さんが関心を持つということがまさに一番の財産である。

(2) 河川環境について

1) 自然環境

- ・ 掘削河道の設定は、現況を良しとして設計されているが、現在の足羽川の低水路幅は、本来よりも広いのではないかと。また、維持流量や正常流量、魚類の生息の視点から、低水路や低低水路の設計にはもっと柔軟に対応してもいいのでは。
→具体の設計をいずれやることになるので、その際、今回のご意見を十分踏まえること。
- ・ 福井豪雨の教訓が今回の低水護岸等の計画に活かされているのか。
→【事務局】福井豪雨の解析結果をうけて、治水上の安全性を考慮して、設計等を行った。低水護岸に関しては足羽川の計画流量に合わせて、モデルを構築し、その計算結果と施工上の制約、沿川の特長、都市計画区分等を勘案して工法を選定している。
- ・ 笏谷石のような風合いを出したり、福井産業の繊維を使うなど福井の特長を活かした護岸工法はできないのか。
→【事務局】県産の繊維を矢板護岸の洗掘防止のためにネット状にしたものを根固という形で使用している。
- ・ 低水護岸はかなりきめ細かく整理されているようだが、4.4k~4.6k付近湾曲部水裏側にまでわざわざ護岸を張る必要はないのでは。荒川の合流処理に護岸を張るにしても、合流点上流まですべて張る必要はないものと考えられる。
- ・ また、5.8kの掘削断面を見ると、深いところはよいが、その他は平らに切られており、まだ修正の余地がある。実際は現場の状況判断になるが、結局全部土羽を切って護岸を張ってしまうような河道になってしまいかねない。詳細な設計はきめ細かくしておいたほうがよい。詳細設計に向けて、検討してほしい。
→デザインポリシーの問題である。ラフにモデル化するのはいいが、実設計の段階では、

実際の状況を踏まえ、デザインしていく必要がある。河川というのは時間のデザインで、自然がデザインしてくれるので時間が経つと落ち着いてくるが、工法の繋ぎや時間が経ったらどうなるかも踏まえデザインを考えていく必要がある。

→【事務局】検討会では方針、方向性を審議していただき、現地の詳細設計は緻密に、委員の方々のご意見を踏まえ、進めていく。

2) 桜堤について

- ・ 桜の移植に際しては、移植桜と幼木の配置など柔軟に対応してくれるのか。
- ・ 桜の根が外側に生えだし、構造物や擁壁を阻害したりしないのか。その対策は講じられるのか。
- ・ 6m幅の道路用地が1m削られることについて、近隣住民とどのようにコンセンサスを図っていくつもりか。
 - 現在の桜は5m間隔で植えられているが、密植のため、木は上へせり上がるように成長している。特にソメイヨシノは枝をぐっと張らせたほうがよい。はじめのころは物足りないかもしれないが、50年100年というスパンで考えたほうがよい。
- ・ 9割強は移植可能であるが、実際の移植に際しては、再度厳選して個体を絞り込んだほうがよい。また、移植に際しては、必ず、根鉢をしなければならない。
- ・ 移植後の1年間の管理が活着を左右させる。施肥管理、害虫対策など講じることで、活着はうまくいくものと考えられる。お役所に頼るのでなく、市民団体などが、1本1本大切に守っていくといった、意識の向上が大事である。
- ・ 右岸の計画について、道路をこれだけ狭めてしまうと、土地の評価額に問題がでてくる。
 - 要求ばかりでなく、具体的にどうしたらよいかという意見を出す必要がある。洪水対策と桜の移植を両立させなければいけない。
 - 浜町など街並みの問題も含めて、現当地元の人と話し合いを行っているところである。今後も地元の理解を得ながら行政と一体になったまちづくりを行っていきたい。
- ・ 日本のように植物の生育条件が恵まれている環境では、樹木はいくらでも生育する。街路樹も8m間隔であるが、本来であれば、10mでも短いくらいである。
- ・ 桜の種類を増やすのであれば、エドヒガンがよい。越前市や丸岡町などにも指定の大木がある。

- ・ 足羽川の桜を工事により3年間閉鎖するというわけにはいかないため、緊急を要する箇所、10年20年と計画的に進める場所などスケジュールをしっかりと立てる必要がある。
- ・ 桜の新植にはソメイヨシノの親であるエドヒガンやヤマザクラ系統などを入れるとよい。また、異年齢のものを混ぜ合わせるなどして、花期も長くて変化に富んだ、多様性・多層性に富んだ新しい時代の桜の名所づくりをしていくとよい。3Dシミュレーションなどで評価。この方針で進めていきたい。
 - いろいろな種類の桜がずっと咲いているという状態をつくるとよい。延伸を含めて、検討する必要がある。
 - 多摩川でも住民がお金を出し合って、桜堤をつくっている。延伸の場所において、みんな苗木を植えていくというのもよい。組織を作って、これから本格的に自分たちで頑張っていくという姿勢が大切である。
 - 【事務局】多様性、多層性という趣旨で考えていきたい。
- ・ 足羽川の桜のみが取り立たされているが、足羽山の桜はどうなっているのか。また、足羽山公園の管理や整備はどうなっているのか。足羽川から始まった事業であるが、これを町全体に広げることのほうが大切である。
- ・ 現況堤防の土質は土壌調査分析結果から、桜の生育に非常にいい土であると判断している。
 - 【事務局】移植に相応しい土について、河床掘削するのでその土を使うことができれば一番よいが、専門家の意見を踏まえて、選定していきたい。
- ・ 治水上、堤防川裏側は排水をよくする必要がある。また、増設した側帯部は桜の生育のために保水性が必要である。この両立をどう図るか。
 - ドレーン工法を実施するようなので、ドレーン工法を前提に、土種を考慮した設計を検討していくとよい。
- ・ 桜の移植は、時間的制約があるので、タイミングを外すわけにはいかない。桜の名所の名所性を維持しながら、どのような手順を組むかが大切である。商工会議所などの利用の面からも情報提供していただき、次善の策を講じる必要がある。

(3)河川環境整備計画(案)

- ・ 結論としては、役割分担であり、県の河川課以外の部門、市、商工会議所や新たなる団

体などの関係機関がきっちりと話しを詰めていかなければならない。電気や水道などのハード整備については、JCなどのソフト面からの要請を計画段階でよく把握しておく必要がある。

→【事務局】ソフト面からの意見については、商工会議所のフォーラムなどでの意見等と併せて行政で対応できること、地元でやっていただくことなど、役割分担を明確にして、第4回までに整理しておきたい。

- ・ 基本方針に環境整備の理念をしっかり示しておいたほうがよい。個人的な快適さ、快楽で環境を改変させないためにも必要である。
- ・ カヌーや船着き場は洲のつくようなところに設置していないか、注意する必要がある。河川工学と、利用が重なるようにする。整備メニューと河道特性のマッチングが必要である。治水上の安全を確保し、その場の特性に応じた設計が必要である。
- ・ 高水敷の中における構造物の制限を明確にする必要がある。
- ・ 激特事業でできることをピックアップすべき。また、幸橋整備事業とゾーニングは整合が取れているのか。

→【事務局】幸橋については、別の検討会が設けられており、福井市も含めて話をしており、整合は取れているものと認識している。

- ・ 事業の役割分担、時間スケジュールを考える必要がある。計画を計画だけに終わらせないためにも、川だけでなく、川と街、川と周辺住民とをうまくつなげていく、活かしていくことが大切である。
- ・ 道頓堀川など国有地や官有地でも一般の民間のレストランに占用許可を出すなど、実験的に道頓堀川等で実施している。現在の河川行政は、かつてのようになんでもだめというわけではない。河川内に固定式のトイレが難しいのは事実であるが、トイレは憩いや楽しみの空間において、極めて重要な問題である。治水上の計画と利用における計画をいかにうまく整合させていくかが重要である。
- ・ 環境改善プロジェクトなのだから、環境改善の便益評価についても考えたほうがよい。
- ・ 基本方針案の1番目について、安全・安心という治水要素と、生物などの環境要素が重複しており、不自然である。
- ・ 基本方針は、戦略が見える言葉で作成したほうがよい。
- ・ 足羽川は市街地に蛇行部が見られる珍しい事例である。川のポテンシャル、ダイナミズ

ムを活かしたデザインである必要がある。そうすることで、自ずと場所ごとの然るべき、無駄のない個性がでてくる。

(4) 福井商工会議所・福井市観光協会意見発表

- ・ 県外からの観光客もトンネル状の桜を目当てにしている。トンネル状の桜堤は市民の誇りであり、整備後においても、再び市民が誇れるトンネル状の桜堤としてほしい。
- ・ 足羽川の水辺と旧料亭街の浜町や足羽山など、周辺状況、環境にマッチした整備をしてほしい。
- ・ 桜堤の桜の配置については、検討会で示されている千鳥配置の移植された既存桜の間に幼木を植えて、世代交代がうまくいくようにしてほしい。
- ・ 現在福井商工会議所青年部では、樹木医等々による桜のパトロールなどを実施している。整備後は桜の里親制度や基金づくりを設けて、市民が自分たちの桜であるという認識と愛着を持てるような仕組みづくりが大切である。桜の時期だけでなく、堤防の除雪や害虫駆除、通年の桜パトロールなど、市民自身の手による管理のシステムづくりが必要である。
- ・ 桜の根元にフットライトを設置したり、浜町などの料亭と一緒にした整備を行ってほしい。
- ・ 今後細かな整備を進めていくにあたり、行政の整備の方針・方向性を事前に関係団体、市民に周知して、使い手である市民、団体の意見を取り入れて整備を進めてほしい。

(5) 福井青年会議所(JC)意見発表

- ・ 足羽河原を中心とした周辺整備(呉服町商店街、駅前商店街、片町商店街など)を行うことで交流人口の拡大、定住人口の拡大につながるものと考えている。
- ・ その交流人口、定住人口の拡大と福井市中心地のマーケットの拡大を図っていく策のひとつとして、九十九橋付近に簡易なイベントが開催できる施設整備が重要である。
- ・ 駅周辺から本町通りを抜け、九十九橋に市民が集うという新しい動線が構築されることで、周辺商店街におけるマーケットの拡大、新規企業の出店、滞留時間の拡大、駐車場や公共交通機関等への波及も期待でき、中心市街地活性化に大きく貢献する。
- ・ 福井はもともと城下町であり、車というよりは歩いて廻る町ではないかと認識している。駅前周辺の開発もさることながら、足羽川が中心市街地活性化の拠点となりうる。

- ・ 福井青年会議所では、秋の収穫祭として、イベントを実施し、そのもとに、足羽川における集客力、周辺への波及効果、駐車場増加利用といったことを実証している。また、利用者においてもアンケートを実施して、イベント施設としての利用のあり方について賛同を得ている。
- ・ この検証をもとに、イベントが2ヶ月に1回、1ヶ月に1回となっていくことで(たとえばフリーマーケットなど)、流動人口の増加、定住人口増加といった流れにつながるものと考えている。
- ・ 足羽川をイベントができるハード、ソフトがそろった中心市街地活性化におけるキーワードと捉え、イベント開催できる足羽川を提案する。